

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 シャコ

学名 *Oratosquilla oratoria*

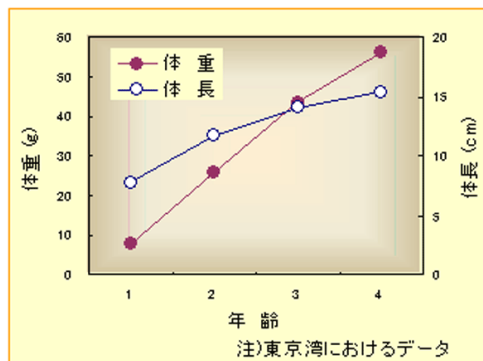
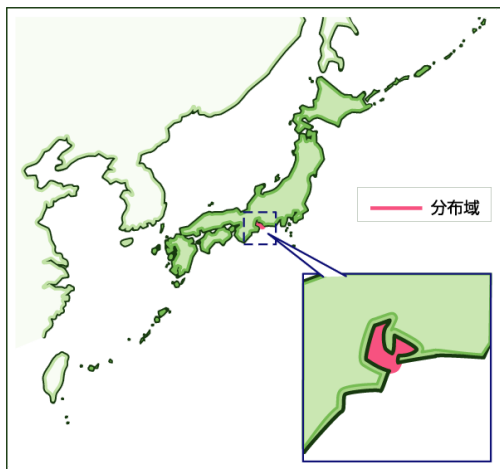
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 3歳（本系群では詳細は不明）
- 成熟開始年齢： 1歳
- 産卵期・産卵場： 5～9月、5月と8月に年2回産卵ピークが存在、2002年度は2～3月と7～8月の2回のピークがみられた、産卵個体は、春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島南部に多い、夏～秋季は知多半島の一部に縮小する傾向がある
- 索餌期・索餌場： 周年湾内全域、他海域であるが、シャコの摂餌特性として、脱皮前の栄養蓄積のために9月は摂餌率が高い
- 食性： 伊勢湾については不明、東京湾では2～3cmの小型個体では魚類を摂餌する比率が高く、4～12cmで貝類の比率が高まり、12cm以上の大型個体では多毛類、甲殻類も摂餌して食性が広くなることが報告されている
- 捕食者： 不明

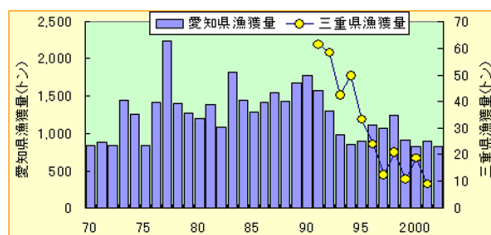


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシャコは他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺し網と定置網で若干漁獲されている程度である。

漁獲の動向

愛知県における1970以降の漁獲量は800～2,000トンの範囲で変動し、3～5年周期で増減を繰り返している。1990年までは増減を繰り返しながら増加傾向にあったが、1991年から4年連続して直線的に減少し、1994年に850トンとなった。近年では、1996年から3年間1,000トンを超える漁獲量がみられたが、1999年以降は再び1,000トンを超えなくなり2001年は896トン、2002年は832トンとなって、過去20年間では低い水準となっている。三重県では愛知県に比較して漁獲量は少なく過去10年間の漁獲資料では10～60トンである。三重県の漁獲量も近年減少しており、1996年以降は10～20トンの低い水準で推移しており、2001年の漁獲量は9トンであった。

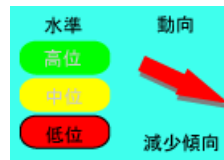


資源評価法

資源状態は小型底びき網を中心とした漁獲量から判断した。

資源状態

近年の漁獲量は愛知県、三重県ともに低い水準で推移しており、資源は極めて悪化していると推定される。



管理方策

資料が少なく管理目標が設定できない状態にあるので、生物学的特性、漁獲特性等に関する情報を早急に整える必要がある。シャコ伊勢・三河湾系群は、水産庁の推進する資源回復計画の対象種に指定されており、同計画では、2007年までを目途に伊勢・三河湾小型底びき網の漁獲対象であるトラフグ、マアナゴ、シャコ3魚種合計の漁獲量を25%程度増加させることが目標とされている。この目標を達成するために、底びき網漁業の休漁期を設定するとともに、漁場等の操業実態を勘案しつつ小型魚保護の観点から小型底びき網の適切な網目に関する検討を行い、小型魚の再放流を推進することが具体的措置としてあげられている。また、再放流に伴う生残率の向上を図るため、小型底びき網漁船にシャワー設備を導入し散水を実施することとしている。

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量から判断して、伊勢・三河湾のシャコ資源は極めて低い水準にある

資源管理方策のまとめ

- 漁獲量以外の判断基準が無い現状では管理目標の設定は困難
- 小型底びき網の目合い引き上げや小型個体の再放流などを積極的に推進する必要あり

資源評価は毎年更新されます。